

グローバルリーダーシップ研究所 Institute for Global Leadership (IGL)

ニュースレター 第23号 令和4年3月

Newsletter Vol.23, March 2022

国際シンポジウム

- 「グローバル女性リーダーシップ—アジアからの提言—」
- 「インドおよびインドネシアにおける女性リーダー：課題とエンパワメント戦略の観点から」

IGL オンラインセミナー Special Lecture

- 第15回 “Leadership Building Programs of Global Organizations: The Case of Peace Promoting International NGO”
- 第16回 「不可能を可能にする存在としての女性」 “Women as Enablers”
- 第17回 「気候変動と災害レジリエンスにおける女性リーダーシップ：フィリピンを事例に」 “Women Leadership in Climate Change and Disaster Resilience: the Case of the Philippines”

IGL オンラインセミナー

- 第18回 「ジェンダーの枠を越え自分発のリーダーシップを切り拓く—アナウンサーが大学教授に、専業主婦からの再出発—」
- 第19回 「リーダーシップを育てる——私の “モザイク” の旅」
- 第20回 「幸せなリーダーになるために——自分のポテンシャルを解き放とう！」

講演会

- 第3回 国際日本学講演会「UCLAにおける日本演劇講演録——パンデミック、人種、ジェンダー平等問題に向き合いながら」
- 第4回 国際日本学講演会「もう一つの天草くずれ —信仰と生業」

日韓3女子大学交流合同シンポジウム

日韓リーダーシップセミナー

Ocha-IGL Award 2021 英語によるエッセイコンテスト授賞式

子育て中の女性研究者支援成果報告会

「若手女性研究者支援」オンラインシンポジウム開催

みがかずば研究員交流会

国連大学プログラム

福井県「未来きらりプログラム」との連携

德音塾(1~2月の報告と2022年度の案内)

後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業報告

- リーダーシップ国際演習Ⅱ
- 男女共同参画国際演習Ⅰ
- アカデミック女性リーダーへの道(実践編)
- 女性のキャリアと法制度
- ファシリテーション
- グローバルリーダーシップ実習Ⅱ
- ダイバーシティ論
- 未来起点ゼミ/未来起点フォーラム

研究所から

国際シンポジウム

■「グローバル女性リーダーシップ - アジアからの提言 -」

シリーズ：アジアにおける女性リーダーシップを考える 4

今年度は 2015 年のグローバル女性リーダー育成研究機構の開設から 7 年目に当たり、これまでの活動の集大成として 2022 年 2 月 18 日(金)に国際シンポジウムを開催しました。この機構の下に設置されたグローバルリーダーシップ研究所とジェンダー研究所の共催になります。これは、2021 年度「アジアにおける女性リーダーシップを考える」シンポジウムシリーズの最終回でもあり、オンラインですが大規模に行われました。日英同時通訳つきです。

第 1 部「実践編：決断し、行動する」では、本学卒業生の本田桂子先生の講演に続き、本学附属校卒業生の山崎直子さんのビデオメッセージが流されました。第 2 部「成果編：探求し、発信する」では、2 つの研究所がそれぞれのこれまでの活動を詳しく紹介し、到達点を示しました。第 3 部「研究編：見極め、捉え直す」では趙成南特別招聘教授がアジアにおける女性リーダーを、アジア工科大学(タイ)の日下部京子教授が本学とアジア工科大学の提携の実績について報告しました。これを受けて、コリーナ・リアントプ



ラ特別招聘教授、デュースブルク・エッセン大学(ドイツ)のカレン・シャイア教授、ノルウェー科学技術大学(ノルウェー)のグロ・クリステンセン教授、ノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国)のジャン・バーズレイ名誉教授といった、これまで 2 研究所に深く関わってきた研究者を迎えてパネルディスカッションが行われました。

全部で 5 時間半に及ぶシンポジウムでしたが、集中力を維持しながら多面的で豊かな議論ができたと思います。オンライン参加者は 137 名に及びました。このシンポジウムを足がかりに今後も活動をいっそう高度化していきたいと思っています。

(グローバルリーダーシップ研究所 研究所長 小林誠)

■「インドおよびインドネシアにおける女性リーダー：課題とエンパワメント戦略の観点から」



2021 年 12 月 16 日(木)、IGL 特別招聘教授コリーナ・リアントプトラ氏の企画による国際シンポジウムが開催されました。本シンポジウムでは、主にインドとインドネシアという文脈を対象として、女性リーダー育成のための課題とその解決のための方策に関する研究成果が発表されました。当日は、人的資源開発研究が専門のラジャシ・ゴシュ氏(ドレクセル大学)、医療保険分野における研究及びコンサルティングに従事するリサティアンティ・コロパ

キング氏(シャリフ・ヒダヤトゥラー国立イスラム大学)、インドネシア大学で研究・イノベーション担当副学長も務めるノルタミ・スーダグソノ氏(インドネシア大学)が登壇し、多様な視点から、有意義な議論が行われました。

上記 3 名による発表の後、コメンテーターとしてリアントプトラ氏が発表を総括し、批判的視点の重要性や複数のアイデンティティを補完的に保つことの必要性等を軸として、今後の方向性が論じられました。

本シンポジウムには国内外から 124 名が参加し、その中には海外からの参加者も多数含まれていました。質疑応答も活発に行われ、リアントプトラ氏の研究実績及びネットワークが存分に活かされたシンポジウムとなりました。

(グローバルリーダーシップ研究所 副研究所長 本林響子)

IGL オンラインセミナー Special Lecture

■第 15 回 “Leadership Building Programs of Global Organizations: The Case of Peace Promoting International NGO”

2021 年 12 月 14 日、タイのサイアム大学副学長であるチョ・チョルジェ氏による特別講義“Leadership Building Programs of Global Organizations: The Case of Peace Promoting International NGO”がオンラインで開催され、学生、教職員合わせて 13 名が参加しました。

講義では、国際 NGO「GCS International」での活動やリーダーシップ開発プログラムを事例として、グローバル組織で求められるリーダーやグローバルリーダーシップのあり方について議論しました。

チョ氏は一般的なリーダーやリーダーシップの定義につい

て述べた後、なぜグローバルリーダーシップが必要なのか、グローバル組織におけるリーダーシップ開発プログラムの意義について説明されました。それをふまえ、これらのプログラムを通じて、個人の行動やリーダーシップが他者に与える影響についての洞察が得られるため、新しい世代の NGO リーダーを育成



するうえでとても重要なだと強調されました。さらに、自身が理事を務める国際 NGO「GCS International」の理念や活動内容などを元に、グローバルリーダーに求められる資質やリーダーシップを示しました。

質疑応答では、NGO の活動に関心のある学生からの質

問や、司会の趙成南 IGL 特別招聘教授よりアジアにおけるリーダーシップモデル構築も必要であるとのコメントがあり、大変充実したセミナーとなりました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵
同 アカデミック・アシスタント 大持ほのか)

■第 16 回 「不可能を可能にする存在としての女性」 "Women as Enablers"

2021 年 12 月 21 日に韓国梨花女子大学のカン・ミナ教授(社会科学大学行政学)を講師にお招きし、第 16 回 IGL オンラインセミナー Special Lecture "Women as Enablers" 「不可能を可能にする存在としての女性」が開催されました。

カン教授は 2018 年から韓国の監査院にて女性初の監査委員も務めており、女性リーダーとして活躍していらっしゃいます。今回は、本学の学生と直接交流の機会を持ちたいというカン教授のご厚意により、学生と教職員 11 名という小規模での開催となりました。

カン教授は、世界中の女性・女子が被害者あるいは援助の受益者となっている現状をデータで示し、その状況を改善するためには「gender sensitive(ジェンダーに配慮すること)」から「gender transformative(ジェンダーを変革すること)」に焦点を移す必要があることを指摘されました。また、女性の立場・地位が向上すれば、女性一人ひとりが

「Enabler(不可能を可能にする存在、実現者)」となり得るとし、ご自身の女性・女子のエンパワーメントに関する取り組みについても紹介していただきました。質疑応答では、カン教授らのプロジェクトに対する質問や、どのように女性自身が Enabler として成長できるのかといった質問があり、講義内容への理解を更に深めることができました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵
同 アカデミック・アシスタント 大持ほのか)



■第 17 回 「気候変動と災害レジリエンスにおける女性リーダーシップ：フィリピンを事例に」 "Women Leadership in Climate Change and Disaster Resilience: the Case of the Philippines"



2022 年 1 月 18 日にアテネオ・デ・マニラ大学のエマ・ポリオ (Emma Porio) 教授をお招きし、IGL オンラインセミナーを行いました。環境問題は私たちが早急に対処しなければならない問題の一つです。そのためには、問題解決へと導くリーダーの存在が必要不可欠といえます。今回講師にお招きしたエマ・ポリオ教授

は、社会から疎外された人々の気候・災害リスクに対する脆弱性・適応・回復力や、コミュニティにおけるリスクガバナンスシステムに関する論文を発表するだけでなく、実際にフィリピンで様々な活動・プロジェクトを推進する女性リーダーの一人です。講義では、現地での経験をふまえて、気候変動や災害レジリエンスにおける女性の役割やリーダーシップについてお話し頂き、学生をはじめとする参加者は災害レジリエンスに寄与するパートナーシップの形成や専門家と住民コミュニティとの連携の重要性について理解を深めました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵
同 アカデミック・アシスタント 大持ほのか)

IGL オンラインセミナー

■第 18 回 「ジェンダーの枠を越え自分発のリーダーシップを切り拓く—アナウンサーが大学教授に、専業主婦からの再出発—」

2022 年 1 月 21 日 (金) に、牛尾奈緒美氏 (明治大学情報コミュニケーション学部教授、同学部ジェンダーセンター長) を講師として IGL オンラインセミナー「ジェンダーの枠を越え自分発のリーダーシップを切り拓く—アナウンサーが大学教授に、専業主婦からの再出発」が開催され、80 名の参加者を得ました。

民放キー局アナウンサーから専業主婦を経て大学教授

という異色のキャリアを切り拓いてこられた牛尾奈緒美氏に、アナウンサー、専業主婦を経て、現職に至るまでの自身のキャリアを振り返りながら、今日の日本社会・組織が抱える



ジェンダー問題や、ダイバーシティ推進の意義について、国内外の経営学の研究成果を交えながらご講演頂きました。

セミナー後のアンケートからは、「ジェンダー平等について今までに聞いたどの講義より具体的で分かりやすい内容だった」、「クォーター制による長所だけでなく短所についても話された上で、女性活躍を推進する必要性について議論されており、論理的だと思った」、「現在のジェンダーによる不平等、ダイバーシティを阻害する要因等について理解が大変深まり、参考になった」といった感想が得られ、

参加者にとって大変有意義なセミナーであったことがうかがえます。

「開発途上の自分と向き合い、変化と進化を起こしていく」、「今が一番若い、いつでも始められる。自分らしい生き方を求めていこう」といった牛尾先生の力強いメッセージに勇気づけられた参加者も多く、「自分発のリーダーシップ」を発揮するための第一歩となったのではないのでしょうか。牛尾先生、素晴らしいご講演をありがとうございました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 宝月理恵)

■第19回「リーダーシップを育てる——私の“モザイク”の旅」



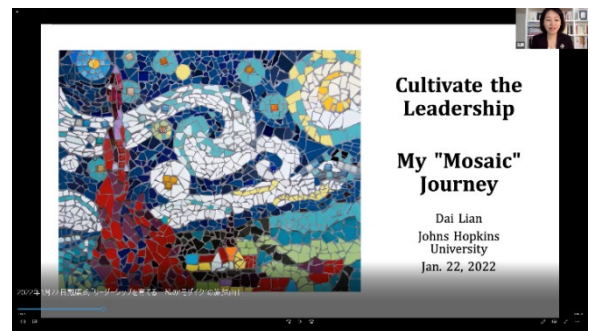
2022年1月22日(土)に、第19回 IGL オンラインセミナー「リーダーシップを育てる——私の“モザイク”の旅」をジョンズ・ホプキンズ大学公衆衛生大学院博士課程在学中の戴廉氏をお招きしてオンラインで開催しました。

本講演では、中国を代表する経済メディア「財新伝媒」の記者時代に医療や健康を担当したことをきっかけ

に医療・健康分野に進む一人の中国人女性として戴廉氏にお話を伺いました。講演の前半では、中国の女性の就労率、社会的地位について各種の統計データを用いて説明があり、続いて3つの時代を分けて、中国の女性リーダーの現状が紹介されました。後半では、戴廉氏自身の領域を横断しながらの生き方、働き方、リーダーシップについての考えを自身の経験に即して具体的に話され、最後に、女性リーダーになるためのアドバイスが述べられました。講演が

予定より15分早く終わったため、質疑応答時間が十分あり、そのおかげで、参加者の皆様から多くの質問をいただき、講師はすべての質問に丁寧に回答されました。講演後、参加者から、「テーマ及びスピーチの内容が全部素晴らしいです。中国人女性のリーダー像も理解することができました」、「女性男性関係なく若いうちから取り組むことのできるキャリア形成のためのヒントを得ることができました」、「プレゼンテーションが論理的でメッセージも明確でわかりやすかったです」といった感想を頂きました。全体的に、講演はとても温かい雰囲気で行われました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 郭麗娟)



■第20回「幸せなリーダーになるために —自分のポテンシャルを解き放とう！」

2022年2月22日(火)16時30分より第20回グローバルリーダーシップ研究所セミナー「幸せなリーダーになるために —自分のポテンシャルを解き放とう！」を開催しました。講演者は増山美佳氏(増山&Company 合同会社 代表)であり、「1.多様性(女性活躍)について、実態を把握しよう」、「2.幸せなリーダーとして活躍できるヒント」の2部構成でお話いただきました。

「1.多様性(女性活躍)について、実態を把握しよう」では、日本のジェンダーギャップ状況とその要因、VUCAの時



代と女性活躍促進について様々なデータを示しながらお話いただきました。「2.幸せなリーダーとして活躍できるヒント」では、VUCAの時代に求められるリーダー像、自分の将来をつくる方法、個人の生活と仕事を楽しく両立させる7つのヒントについてお話いただき、講演は終了しました。質疑応答では高校生や大学生、働く女性から多様な質問・感想が途切れることなく寄せられ、講演会終了後のアンケートでは「女性が働き続けていくうえで重要なポイントについて、経験を交えてお話いただき非常に参考になりました」などの感想をいただきました。

※講演内容の詳細は IGL ホームページをご覧ください。
<https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/d010354.html>



(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 内藤章江)

講演会

■第3回国際日本学講演会

「UCLAにおける日本演劇講義録——パンデミック、人種、ジェンダー問題に向き合いながら」

【日時】2021年10月23日(土)13:30~15:00

【登壇者】嶋崎聡子氏(カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)准教授)

【コメンテーター】神田由築(グローバルリーダーシップ研究所 比較日本学教育研究部門長/教授)

【司会】埋忠美沙(グローバルリーダーシップ研究所 日本学教育研究部門 研究員/准教授)

【使用言語】日本語

【参加者数】学生・教職員・一般 約90名

【共催】「伝統芸能×未来」プロジェクト

【内容】海外における日本演劇研究を牽引する嶋崎聡子氏を講師に迎え、UCLAにおける日本演劇の教育について、コロナ禍における最先端の取り組みを踏まえてお話いただきました。主に以下の5つが話題となりました。

- ①アメリカにおけるUCLAの位置付け、②日本演劇講義「Performing JAPAN」の内容と実践方法、③Zoom講義によるDigital Intimacy(デジタルの環境での親密さ)、④BLMを通じて考えた構造的差別と日本研究、⑤パンデミックと教育、ジェンダー問題。

日本演劇はもとより、大学の構造や昨今の社会問題に深く関わるテーマにも話が及び、そのスケールに圧倒される講演となりました「UCLAの特色や、Zoom形式ゆえの困難だけではなくそれが生んだメリットについてもお話を伺え、世界の状況を垣間見ることができた」、「学際的な視点で専門分野を深めるとはこういうことを言うのだと感じた」、「日本よりもより人種意識や世界的な思想の流れ、学生の出身文化圏の違いなどを意識した授業展開をされているのだと感じた」などの感想が寄せられ、高い満足度がうかがえました。

(グローバルリーダーシップ研究所 日本学教育研究部門 研究員/准教授 埋忠美沙)



■第4回国際日本学講演会「もう一つの天草くずれ—信仰と生業—」

【日時】2021年12月18日(土)14:00~15:30

【登壇者】鶴島博和氏(熊本大学名誉教授)

【使用言語】日本語

【参加者数】学生、教職員 42名

【内容】

国際日本学講演会の第4回として、講師に熊本大学名誉教授の鶴島博和氏をお迎えして、「もう一つの天草くずれ—信仰と生業—」という演題にてオンラインで講演いただきました。

鶴島氏はイギリス中世史が御専門ですが、20年以上前から本格的に天草地方のキリシタン調査に乗り出され、今年8月にはそのひとつの成果として『肥後国天草郡一町田組・大江組大庄屋松浦家資料集(一)』が刊行されました。今回はこれらの調査結果を踏まえた最新知見を披露いただき、まさにグローバルな視点から日本を見つめる好機となりました。

前半ではポルトガル人宣教師の書簡などから16世紀に天草にキリスト教が受容されていく過程が紹介され、後半では村方の史料から、受洗の儀式や結合の様子などキリシタンたちの克明な生態が解き明かされ、「弾圧に耐えて信仰を守り通した」という従来の定説とは異なる、海域ネットワークを基盤に広域的に結合していた天草キリシタンたちの実像が浮かび上がりました。参加者は42名で、世界史と日本近世史をつなぐダイナミックな報告に刺激を受け

た学生からの質問もあり、教育効果も高かったと思われます。開催後のアンケートでは、21名から回答を得て、「満足度」について高い評価を得ました。

(グローバルリーダーシップ研究所 比較日本学教育研究部門長 教授/神田由築)



日韓 3 女子大学交流合同シンポジウム

国際的なリーダーとなるべき系系人材の育成の一環として、かねてから交流の深かった梨花女子大学(韓国)、日本女子大学、および本学の日韓 3 女子大学が協力して、学生の研究交流合同シンポジウムを過去 10 年以上にわたり開催しています。シンポジウムの経緯は、『お茶の水女子大学自然科学報告』第 71 巻特別号で紹介していますので、ぜひご覧ください

(<https://www.lib.ocha.ac.jp/oab/12shizenkagaku/2020-09.html>)。

第 11 回(2020 年度)は、新型コロナウイルス感染症の影響でシンポジウムを初めてオンラインで開催しました。今年度もまた、オンラインで 12 月 15 日に開催しました。今年度は昨年度よりも規模を大きくすることができ、13 件の学生口頭発表と 2 件の教員口頭発表がありました。本学では国際交流留学生プラザ3階のセミナー室にスタジオを設け、発表者はスタジオで発表することもできるようにしました。それぞれの発表では、各自が専門とする物理学、化学、数学、生物学、建築学などの研究成果が紹介されました。

日韓リーダーシップセミナー

日韓の女子大生にリーダーシップについて学ぶ機会を提供するため、また韓国との大学間交流を促進するため、本学より同徳女子大学(韓国)に提案して 2 月 7 日、8 日にセミナーを開催しました。両大学で選ばれた 10 名の学生が参加し、1 月 18 日、25 日に顔合わせを行い、懇親を深めた上で実際のセミナーに参加しました。

初日は、本学の石井クンツ昌子理事・副学長より、「Women and Leadership」をテーマに、日韓ともに女性のリーダーに関する指標値が世界的に低い傾向を示した上で、リーダーシップとは政治・経済のみならず、様々な場面で共通の目的(goal)に向かって周囲に影響を与え得る(influence)力を持つことが重要な要素であるとの説明がありました。質疑応答では多くの質問が寄せられました。講

義後のディスカッションでは学生たちに対して、自身の考えるリーダーシップとは何か、どのように企業における女性リーダーを増やすのか等について議論を深める時間がもたれました。

学生それぞれが、各自の研究内容を発表できたこと、普段の研究活動では聞くことがない他分野の研究を考慮することができたことの意味は大きかったと思います。コロナ禍では研究の口頭発表の機会が非常に限られてしまっています。そのような中で、口頭発表する機会があつてよかつたとの感想を参加学生からはもらっています。研究発表を行った学生諸君にとって、今回の経験がご自分の研究分野や、これからのことを考える糧になってくれれば幸いです。

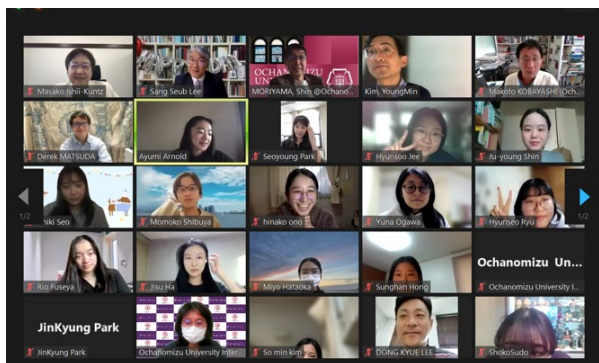
(基幹研究院 自然科学系 教授 由良敬)



2 日目は、同徳女子大学の Dr. Sang Seub Lee より、「Cross-cultural Leadership」について講義がありました。言語や食、服装等の文化は、その根底にある思想や習慣、態度等によって表面化された一部にすぎないとし、Hofstede のモデルをもとに、同じ絵でも欧米とアジア圏の人では捉え方が大きく異なることを示す街頭調査の動画を見せながら紹介されました。後半はグループ毎に外国人と仕事などを学ぶ際の問題等についてグループ・ディスカッションが行われました。

参加学生たちからは、日韓間の異なる文化背景を持つ者同士が、共にリーダーシップについて考え、学んだ経験を、今後に活かしたいとの肯定的な意見が挙げられました。閉会式では、日韓の講師陣より一言ずつ総評と挨拶を行い、参加学生間の友好と今後のリーダーシップ発揮を願いながら、和やかに終了しました。

(国際教育センター/グローバルリーダーシップ研究所
講師 松田テレク)



Ocha-IGL Award 2021 英語によるエッセイコンテスト授賞式

Ocha-IGL Award 2021 授賞式を 2 月 4 日(金)にオンラインにて開催しました。Ocha-IGL Award は、リーダーシップ/リーダーについての理解を深めるために創設された英語によるエッセイコンテストです。2020 年 11 月 18 日に

本学でご講演いただいたミュンヘン工科大学副学長クラウディア・ポイス教授が本学の学生のリーダーシップ教育にと講師謝礼を辞退されたため、先生のご厚意を契機として企画されました。

2021年1月～12月までに開催したIGLのオンラインセミナー、シンポジウムに参加した本学学生(学部生、院生)を対象として「IGLセミナーにおいてリーダーシップ/リーダーについてどのような学びが得られたか、その学びを今後どのように活かしていきたいか」について英語によるエッセイを募りました。厳正な審査の結果、3名に賞が贈呈されることとなりました。

授賞式では小林研究所長から「今後もグローバルリーダーシップ研究所で開催されるセミナーに参加していただき、学び続けることを期待します」と挨拶があり、賞状、副賞の授与が行われました。続いて本林副研究所長から賞設立経緯が説明されました。その後審査員(松田講師、岡村特任講師、内藤特任講師、郭特任講師、宝月特任講師)からの講評があり、受賞者にエールが贈られました。

最後に受賞者がコメントし、今年のセミナーでの学び得たリーダーシップについての見識と、得た知識をどう活かしていくか語られました。IGLでは今後もリーダーシップに関

するオンラインセミナー、シンポジウムへの参加を学生に呼びかけ、IGL Awardへの応募を通じて英語で自分の意見を発信する機会を設けます。

Ocha-IGL Award 事務局
(グローバルリーダーシップ研究所 特任アシエイトフェロー 林有維
リサーチ・アドミニストレーター 長塚尚子
企画戦略課 男女共同参画担当 副課長 本橋直美)



子育て中の女性研究者支援成果報告会

2009年度より本学独自の事業として、子育てをしながら優れた研究を行う本学所属の常勤女性教員(研究者)を対象に、アカデミック・アシスタントを週29時間(上限)研究補助者として配置できる支援を実施しています。支援対象者、支援期間、支援内容についてはホームページをご参照ください。2021年度の研究成果については3月のアンケート回収時に、学会発表数、論文発表数、特許、研究費・助成金の獲得数等を集計する予定です。

支援対象者による支援事業によるオンライン成果報告会(2022年3月1日開催)にて研究者3名による発表が行われました。成果報告会では、研究成果や生活の変化などについて報告を受け、支援により業務負担が軽減することができたか、研究活動が継続可能となったか、研究成果(学会発表、論文執筆、外部資金の獲得、特許出願など)が促進されているかを確認しました。コロナ禍における女

性の育児、家事の負担はますます増加していますので、教育研究活動に影響を及ぼしているため、継続して支援を検討していきます。

※子育て中の女性研究者支援 紹介ページ

<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/propulsion/groupingmenu/support/d003845.html>

2021年度とこれまでの実績は以下の通りです。

*2021年度の実績 3名

*これまでの実績 ・2009年度 6名・2010年度 7名
・2011年度 7名・2012年度 6名・2013年度 5名
・2014年度 5名・2015年度 6名・2016年度 4名
・2017年度 4名・2018年度 3名・2019年度 3名
・2020年度 5名

(グローバルリーダーシップ研究所 特任アシエイトフェロー 林有維)

「若手女性研究者支援」オンラインシンポジウム開催

「若手女性研究者支援」プロジェクトは、本学みがかずば研究員を対象に、シンポジウムや研究集会等の開催のための経費を支援するものです。イベントの企画・運営を通して研究力の向上と研究推進を目的として助成を行っています。

採択された門田園子氏は「くらしを研究する-衣食住のデザイン学、その方法論」と題して、2021年12月11日(土)にオンラインシンポジウムを開催しました。企画者が所属するデザイン史学研究会とグローバルリーダーシップ研究所が共催し、後援は本学生活科学部生活文化学講座と津田塾大学言語文化研究所「都市・女性・モダンティ」研究会が行いました。本学の生活文化学講座で行われている衣食住の多様な研究と方法論を紹介し、デザイン史研

究の事例報告も行うことで、生活史研究とデザイン史研究の双方にとって、研究対象へのアプローチのあり方を探る機会を設ける場となりました。

日常と関連の深い衣食住にまつわるくらしの研究は、歴史学、社会学、民俗学、家政学、経済学など多くの分野からの多面的なアプローチが試みられてきました。シンポジウムではデザイン史学、生活文化論の領域で行われているくらしにまつわる研究事例を紹介し、研究対象の設定、扱う資料、方法論について活発な討議が行われました。日本語と英語の2言語で報告書を出版し、成果を発進することになっています。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任アシエイトフェロー 林有維)

みがかずば研究員交流会

2021年度みがかずば研究員交流会を3月4日にオンライン上で開催しました。

本学では2012年度より、すぐれた女性研究者の継続的な研究活動を支援するとともに、女性研究者が研究中断後に円滑に研究現場に復帰する機会を提供するために、本学独自の特別研究員(呼称:みがかずば研究員)制度を導入しています。

交流会では、みがかずば研究員6名が自己紹介を行い、研究活動や生活面における変化、今後の進路などについて情報交換を行いました。専門内容は多岐に渡り、研究員同士が刺激を受ける場となりました。意見交換や情報交換

の時間を長めに設け、研究者としての悩みを相談する場となりました。グローバルリーダーシップ研究所では、今後も半年に一度を目途に交流会を開催する予定です。

※女性研究者のための研究継続奨励型「特別研究員制度」(通称「みがかずば研究員制度」)の創設について

<https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/introduction/d003276.html>

(グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー 林有維
企画戦略課 男女共同参画担当 副課長 本橋直美)

国連大学プログラム

2021年7月から9月にかけて、本学の学生2名(文教育学部人間社会科学科の4年生と大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻の1年生)が、国連大学サス



テナビリティ高等研究所が主に日本の大学に所属する大学院生向けに開講する短期オンラインコース「アフリカの持続可能な開発のためのグローバルリーダーシッププログラム(GLTP)」へ参加しました。

当該プログラムは、文部科学省の支援を受け2013年度

から続く「アフリカにおけるグローバル人材育成事業」の一つであり、日本の若手研究者育成の観点から国連大学が日本の高等教育に貢献する事業です。ニューヨーク大学とヨハネスブルク大学と連携したカリキュラムにより、アフリカにおける持続可能な開発に関わる幅広いアジェンダに関して、国際開発協力の視点からアフリカの実務者や学者と議論し、持続可能な開発への貢献に必要とされるスキルや戦略形成の手法を学びました。

国連大学のプログラムに参加することによって、アフリカの持続可能な開発について学びを深め、プログラムで知合った他国の学生とのネットワークも構築することができたようです。グローバルリーダー育成という観点においても大変意義のあるプログラムとなりました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利息)

福井県「未来きらりプログラム」との連携

お茶の水女子大学と福井県は2012年1月21日に女性リーダー育成のための相互協力協定を締結しました。これに基づき、本学は福井県による県内社会人女性のキャリアアップを目的とした研修プログラム「未来きらりプログラム」の策定・実施に参画しています。

2021年4月28日に開催された「未来きらりプログラム」開講式には、本学からオンラインにて出席し、石井クンツ昌子理事・副学長(グローバル女性リーダー育成研究機構長)が挨拶を、高崎美佐学生・キャリア支援センター講師

が「キャリアデザイン」の講義を行いました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度も「未来きらりプログラム」の受講生が本学に来学することは叶いませんでしたが、オンラインにて「お茶の水女子大学論」を4回、「女性のキャリアと経済」を4回聴講し、6月9日と12月7日の講義終了後には、オンラインにより、講師の方と懇談会を行い、家庭と仕事を両立していく上での工夫などを話し合い、講師からアドバイスをいただきました。

3月18日にはオンラインによる修了式が予定されてお



2021年4月28日 オンライン開講式



2021年10月7日 福井県知事への提言手交式

り、小林誠グローバルリーダーシップ研究所長が今年度の「未来きらりプログラム」の講評を行います。

また、2019年度から行っている共同研究「福井県女性の人生選択と自己実現に関する調査」をもとに

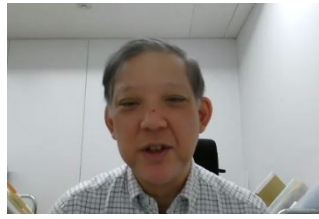
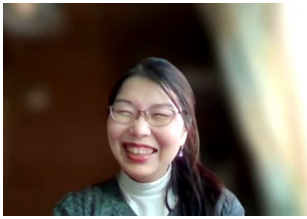
分析した結果から、福井県の女性の幸福度などが向上することを目的とする15の政策提言を策定し、2021年10月7日にオンラインによる手交式にて、石井クンツ昌子理事・副学長から杉本達治福井県知事へ提言書を手交しました。

本学と福井県との今後益々の連携強化が期待されます。
(企画戦略課 男女共同参画担当 副課長 本橋直美)

微音塾 (1~2月の報告と2022年度の案内)

今年度の締めくくり、年明けには4科目を開講しました。「お茶大プロフェッショナルレクチャー」(本学教員担当)の「サステナビリティを目指した遺伝リテラシー」(佐々木元子講師)、「身近な地域で災害に関する地図を作ってみよう」(長谷川直子講師)、「平時と災害時における水の確保(質と量の両面から)」(大瀧雅寛講師)は、受講者の個

人的な興味、問題に親身に寄り添う内容となりました。「ビジネス講座」の「これからの女性リーダーが知っておきたい法律」(汐崎浩正講師)は、終了時間後も質疑応答が活発に続きました。いずれの回も、一人一人への講師の丁寧な対応により、満足度の高いものとなりました。



◇2022年度5月~6月開催の講座◇

2022年度は「女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座」、「お茶大プロフェッショナルレクチャー」、「ビジネス講座」を各6科目開講します。まずは「女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座」を以下のように予定しています。

5月

- 5/14「女性の生活が楽になる女性学 ~忙しい中でも自分らしく~」(石井クンツ昌子講師)
- 5/21「自分と次世代のための流されない生き方~人生のハンドルは自分が握る~」(岩田千栄美講師)
- 5/28「女性管理職はいかにして育つか~ダイバーシティとリーダーシップからの検討」(岡村利恵講師)

6月

- 6/4「あなたの背中を押します!~アカデミアの役割と活用方法~」(藤原葉子講師)
- 6/11「コロナショック後で多様化するワークスタイルとキャリア形成」(渡邊享子講師)
- 6/18「仕事も家庭も!頑張るけれど自然体で」(小西雅子講師)

ご自身の可能性を开花させる契機となれば幸いです。他の科目と詳細についてはHPをご覧ください。パンフレットも1部から無料でお送りします。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任アシエイトフェロー 森暁子)

後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業報告

■リーダーシップ国際演習II

前期に開講した「リーダーシップ国際演習I」では、リーダーシップとジェンダーをめぐる現在のグローバルな問題を、文献を読み解きながら多角的に概観しました。後期の「リーダーシップ国際演習II」では、第4次産業革命と言われるこの新時代において、私たち自身がどのように未来をデザインし、変化する地球環境に適応する新しいリーダーシップパラダイムを構築できるかということを中心に議論しました。特に、欧米の男性優位の視点に基づいた既存のリーダーシップモデルではなく、アジア女性のリーダーシップに焦点を当て、今日私たちが直面しているグローバルな問題を克服するための新しいリーダーシップパラダイムの構築ということに着目しました。そこでは、新しいリーダーシップモデルを、分かち合いと思いやり(幸福の方程式)の概念を含む「創造的母性型リーダーシップ」と提案し、これらのリーダーシップの特徴をアジア女性の歴史的・文化的特

徴に重ねて考察しました。

また、今学期は、国内外からCheol Je Cho サイアム大学副学長、Minah

Kang 梨花女子大学教授、Emma Porio アテネオ・デ・マニラ大学教授の3名をゲストスピーカーとして招き、それぞれのプロジェクトや研究についての講義を通じてアジアの女性リーダーシップについても学びました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵)

大学院共通科目
リーダーシップ国際演習II
International Seminar for Leadership II

リーダーシップとジェンダーの関連性を、現代の女性リーダーたちの実践を基に分析し、新しい時代のリーダーシップモデルを探求します。

科目名: リーダーシップ国際演習 II [21S0263]
"International Seminar for Leadership II"
日程: 後期火曜5-6限 (13:20-14:50)
授業形態: オンライン
使用言語: 英語
単位: 2単位

【問い合わせ先】 グローバルリーダーシップ研究所 E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
http://www.cf.ocha.ac.jp/ijl/

■男女共同参画国際演習 I

2021年度後期、本学ではコリーナ・リアントプトラ IGL 特別招聘教授(インドネシア大学 心理学部 准教授)による「男女共同参画国際演習 I」が開講されました。この授業は“Leadership and Organizational Behaviour”(組織行動論から見たリーダーシップ)をテーマとしており、いわゆるマイクロ組織行動論の観点から、リーダーの行動やスキルに焦点を当てて検討し、リーダーに求められる特性、態度、スタイル等について考えるというものでした。

授業では、近年のリーダーシップ研究に基づいてリーダーシップや組織行動論における基本的な理論や考え方が紹介され、それらをもとに心理学・科学的な観点からリーダーシップ実践を捉えるとともに、受講生自身の行動や特性を理解しリーダーとしてのあり方を考えるという構成になっており、受講生がリーダーシップを理論的に理解し、リーダーとしての資質を伸ばしていくことに非常に役に立つもの

であったのではないかと思います。

この授業は全て英語で行われました。学部を超えて様々な国籍の受講生が参加しており、オンライン授業でありながらディスカッションも活発に行われるなど、充実した様子でした。



(グローバルリーダーシップ研究所 副研究所長 本林響子)

■アカデミック女性リーダーへの道(実践編)

大学院生(博士前期・後期課程)を対象とした「アカデミック女性リーダーへの道(実践編)」は、日本学術振興会特別研究員への採用や研究費獲得を目指すための実践型授業(全3日間の集中講義)です。

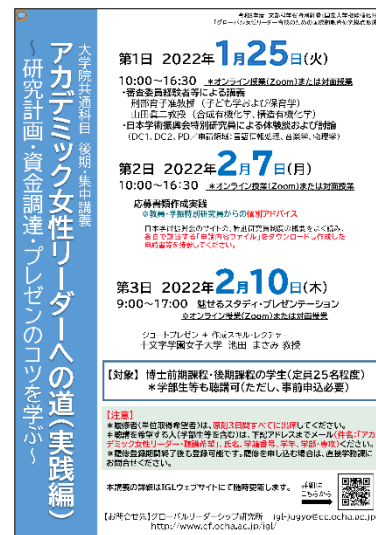
具体的には、(1)学内教員および現学振特別研究員である本学所属院生・ポストドクターを講師とした講演会から、申請書を作成する際の重要点や注意点を学びます。さらに(2)受講生自身の研究テーマに基づく特別研究員申請書類の作成実習を行います。各受講生が作成した仮申請書は、レクチャーを担当した教員、現特別研究員から細やかな個別指導を受けることができます。最後に、(3)「魅せるスタディ・プレゼンテーション」として、受講生自身が2回にわたって模擬研究プレゼンテーションを行い、効果的なプレゼンテーションの方法を学びます。教員や受講生による質疑応答や評価など、審査本番さながらの実践形式の授業が展開されました。以上のように、本授業は特別研究員の申請に向けた体系的な準備ができるように綿密に設計されています。

受講生からは、「先生方のお話から、申請書類を書くにあたって、意識すべきことや審査の際にどこを見られるかという観点について学び、研究員の方々のお話から、その具

体的な書き方を学ぶことができ、非常に分かりやすかったです」、「審査者・申請者、文理芸術など幅広い立場の複数の方からお話を聞くことで、分野に偏りのない、特別研究員制度や選考全体の核となるポイントを掴むことができました」、「スライドの見栄えや発表のしかたのみならず、内容へのコメントもいただけて、学びになりました。全く異なる研究フィールドの方に見ていただくことで、自分が意識せずに前提としているアイデアに気づくことができました」といったコメントが提出されました。

受講生が次年度以降、現特別研究員として本授業に戻ってきてくれることを大いに期待しています。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 宝月理恵)



■女性のキャリアと法制度

キャリアデザインプログラムの基幹科目の一つである「女性のキャリアと法制度」は、家族社会学とジェンダーの視点から、「女性の労働・就労」や、現代のライフコース選択にかかわる様々な問題について分析・考察し、働く女性に関する実態や法制度について学ぶとともに、受講生自身の将来のキャリア形成について考えることを目的としています。

今年度の受講生は22名、授業の前半は講義、後半は前

半の講義を踏まえた受講生による個人プレゼンテーションで構成されました。プレゼンテーションのテーマは授業で触れた論点に関連することであれば自由に選択でき、「女性の管理職志向について」「法制度から検討する男性助産師の是非について」「なぜ女性研究者は少ないのか」「専業主婦回帰という現象」等、きわめて多様性に富むものとなりました。

受講生は、毎回授業後のリアクションペーパーの提出が

求められましたが、多くの熱のこもったコメントが提出されたことも本授業の特徴の一つだといえるでしょう。「色々なことに興味の広がる授業だったなと思います。基本的な用語の解説だけでなく、女性を取り巻くあらゆる制度や状況について考えることができました。またこれから日本の制度がどうあるべきか、について毎回考えさせられた気がします。また特に、この授業を通して専業主婦というテーマにも興味を持ち、本を漁ってそのテーマに没頭できた時間はすごく楽しかったです。さらに少人数だったので、質問もしやすい雰囲気であったことも貴重でした」、「今回初めてジェンダーの授業を受けましたが、講義や受講者の皆さんのプレゼンを踏まえて、ジェンダーに関してより興味を持ち、もっと学びたいと思いました。普段のニュースを見る視点や自分

の将来に関してもジェンダーと関連づけて考えられるようになりました」、「これまでの授業を通して新しい事実を知るだけではなく、自分が今まで考えていた事への自分とは異なる視点も投入する事が出来たように思う。そのため、新しい関心が出来ただけではなく元々考えていた事について自分になかった視点から考えられるようになった。日本の現状を作り出しているのは複数の原因が絡み合っているのので、これからも学び、自分の考え方自体にも再考の余地があるという事を忘れずに多角的に学んでいきたい」といったコメントが寄せられました。

受講生ひとりひとりが、本授業で得た学びを、今後さらに発展させていってくれることを期待しています。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 宝月理恵)

■グローバルリーダーシップ実習Ⅱ

本授業は前期後期の通年で開講される授業で、後期にはイタリアのPavia大学の女子カレッジ Collegio Nuovoでの研修を行う予定でしたが、昨年度に引き続き今年度も残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で研修を実施することが出来ませんでした。

イタリアの学生と寮生活を共にし、リーダーシップやソフトスキルを学ぶという当初の計画には及ばないかもしれませんが、今年度は代替する内容として、グループに分かれてリーダーシップに関する英語での動画作成プロジェクトを行いました。ここ数年、教育用のオンラインツールは目覚ましい発展をとげており、学生が無償で使用できる動画作成やアンケート作成のためのツールも増えたため、このような類のプロジェクトは各段に行いやすくなりました。

学生が作成した動画の発表会を2022年2月9日に実

施し、そこには Collegio Nuovo の学長はじめ Collegio Nuovo の学生、教職員、そして本学の海外招聘教授の先生方にも参加頂きました。女性リーダーシップに関する動画をきっかけに日本とイタリアの学生同士、活発な議論を持つことができました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵)



■ファシリテーション

「ファシリテーション」は、前期授業「パーソナル・ブランディング」において磨いた「個」を「チーム」で発揮するための授業です。授業では、企業から提示された課題をグループで解決するプロジェクトに取り組み、その問題解決のプロセスを通して、ファシリテーションスキルを身に着けるだけでなく、企画立案力及びプレゼンテーションスキルの向上を目的としています。2021年度の受講生は14名であり、すべての授業をオンラインツール(Zoom)にて実施しました。この授業を通じて、学生達はグループやチームで作業することの「楽しさ」や「難しさ」などに気づき、目的としていたスキルの向上が認められました。

受講者の感想として「ファシリテーターのみでなくフォロ

ワーとしての立ち振る舞いも学ぶことができたため、フォロワーとしての意見の出し方も変わった」、「知識的にも精神的にも成長が感じられる授業でした」、「この講義を通じて、グループワークに臨む姿勢が変わりました。自分なりのファシリテーションを身につけることができたと思います」などを得ました。

講義に対する満足度も高く(とても満足 54%、満足 46%)、本講義を役立つ(とても役立つ 92%、少しは役立つ 8%)と回答し、講義を通じて考え方や行動が変わった学生(大いに変わった 69%、少し変わった 31%)が多数みられました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 内藤章江)

■ダイバーシティ論

本授業では、特に組織におけるジェンダー・ダイバーシティに焦点を当てながら女性のリーダーシップについて学び、企業の取り組みについて事例研究も行いながら、組織でダイバーシティを推し進めるにはどのような「仕組み」が有

効なのかをアクティブ・ラーニングを通じて学生と一緒に考えることを重視しました。

今年度は2名の学生が履修しました。インタラクティブな授業の在り方を追求し、学生の意見に耳を傾ける機会を

授業内に多く取り入れました。少人数の授業であるためかラポール形成(関係構築)も円滑に進み、毎回の授業で学生の生き生きとした表情や積極的な発言が見られました。授業では「ダイバーシティ」に関する動画をリサーチさせ、1人の学生は日本の金融企業の動画を、もう1人の学生は米国のIT企業の動画を取り上げました。後のディスカッションでは、2つの動画を比較しダイバーシティの捉え方の文化差や底流にある概念の違いということについて批判的に

考察し、日本の企業組織が標榜する包摂(Inclusion)とは、実際には同化ではないのかについても議論しました。

このような重厚な議論を通じて、履修生のダイバーシティへの理解はより深まったでしょう。彼女たちが今後社会や所属する組織で、リーダーシップを発揮しダイバーシティを推進していくことを期待します。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 岡村利恵)

■未来起点ゼミ/未来起点フォーラム

2021年度「未来起点フォーラム」を2022年1月20日(木)にオンラインで開催しました。当日は学内、学外合わせて59名(未来起点ゼミ生29名、教員とAA4名)が参加しました。

今回の「未来起点フォーラム」の司会、全体挨拶、進行、クロージングを含め、全て学生が担当しました。本番では、同時進行で3つのブレイクアウトルームに分かれ、参加者は発表のタイムスケジュールを見て、各自で聞きたいテーマを選択してブレイクアウトルームに入りました。それぞれの



発表タイムスケジュール・テーマ

時間	発表者	発表テーマ
16:50-17:00	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
17:00-17:15	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
17:15-17:30	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
17:30-17:45	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
17:45-18:00	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
18:00-18:15	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
18:15-18:30	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
18:30-18:45	学生発表者	ダイバーシティに関する動画
18:45-19:00	学生発表者	ダイバーシティに関する動画

発表後、また聞きたいテーマにより別のブレイクアウトルームへ移動することも可能としました。

発表時、発表が長くなり質疑応答の時間が短くなってしまいう学生もいましたが、ほとんどの学生は落ち着いた様子で時間内に発表していました。参加者はビデオオンで参加した方が多く、チャット機能を使って、コメントや感想や質問などを書き込んでいました。学生もそれらに上手に対応していました。学生の発表内容は理想の生き方や社会の中での居場所や人間関係などに関するものが多く、また、中高生の教育問題や外見についてのテーマもあります。全体的にみると、個々人や社会とのより良いつながりについての問題関心が強いです。新型コロナウイルス感染症による社会の分断が進み、人々の対面交流が減る社会状況が反映されているように思います。

任意参加の交流会は、参加者が学生たちに質問したり、自分の感想を述べたり、また、アドバイスをしたりして、交流が盛り上がっていました。今回の「未来起点フォーラム」はオンライン開催でしたが、学生の入念な準備、また参加者の積極的な参加により、とても有意義な時間となりました。

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 郭麗娟)

研究所から

2015年に当研究所が発足し、文部科学省の機能強化経費という特別経費が今年度で終わります。予算源を変えて、来年度以降も当研究所は新たな展開をめざして活動を続けます。驚くべきことに、本学ではこれまで研究所が4つあったのですが、4月からはいっしょに新設6研究所を加えて10研究所態勢になります。それぞれが提携協力しながら、また切磋琢磨しながら、個性的な研究活動を繰り広げたいと思います。

(グローバルリーダーシップ研究所 研究所長 小林誠)



【発行元】 国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 人間文化創成科学研究科棟 506 室

Tel/Fax: 03 (5978) 5520 E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>